キリスト教保育

2023年9月1日発行（毎月1回1日発行）第654号

年主題
ともにつむぎだす
～希望の中で～

論説
キリスト教保育の平和
月下星志

巻頭言
保育園の感謝の気持ちから
普光院亜紀

9
2023 SEPT.

潮よ、手を打ち鳴らし、山々よ　共に喜び歌え。

新共同訳聖書・詩編98編8

◎日本語の「一緒」とは何か。「に」を伴った副詞句の「いっしょに」は主に二つの意味を持っています。

①一つになる、同じ行動をする、ひとまとめにするさまを言ったものです。②同じであること、例えば「私の考えもあなたといっしょだ」というように。「一緒くた」という言い方は「ごちゃまぜ」という意味で、「花も雑草もいっしょくたに抜く」と使われます。すなわち、何もかもひとまとめにするという意味です。

近年よく使われる言葉に、共生、共在、共存、共立、共感、共鳴、共有などがあり、「共に」「一緒に」を、人間の在り方、生き方として考えるようになってきました。

◎聖書における「いっしょに」

同じ意味を持つ言葉には、結集する、招集する、集まる、結び合わせるというものがあります。

◎神賛美としての「共に」

詩編98の6～9は、賛美の調子が強く出ています。特に、この世界とそして自然に対して、神が来られるのを歓呼しつつ迎えるように求めています。難しい言い方をすれば、王としての主（ヤハウェ）の終末的な到来をたたえているのが、この詩編です。主が来られるということが、世界の喜びとなるというモチーフが強く打ち出されているのです。

人格のない自然さえも喜び歌えと命じます。イザヤ書55:12、49:13、44:23は、自然を人格化しつつ、海と地とのどよめきの中に、潮の「手拍子」の中に、自然がひざまずく様子を歌っています。神賛美に唱和するように、全地が呼び召されているということほど聖書における「いっしょに」の意味は深いのです。

保育の中における「いっしょに」であることを、どのように考えてきたでしょうか。「いっしょに」ということで、ひとまとめにされることを考えれば、恐ろしいことなのです。私たちは個の存在を軽視し、子どもたちを人間として尊重していないことにもなるからです。「いっしょに」であることから、多くの安心感も与えられます。「いっしょ」の良さもありますが、絶対に「いっしょ」であってはならないこともあることを、知っておきたいのです。

（宗宮　進・執筆　当時・日本キリスト教団津山教会牧師　田町保育園園長）

1989年『キリスト教保育』誌9月号より

一部省略、要約してあります。

キリスト教保育

第654号9月号

年主題

ともにつむぎだす

～希望の中で～

幼子とともにキリストへ　2
目次　3
〈巻頭言〉
保育園への感謝の気持ちから　普光院亜紀　4
〈論説〉
キリスト教保育の平和　月下星志　6
〈小論〉
DVを理解することの大切さについて　杉山春　14
図書紹介　大北理津子　長谷川歩美　19
聖書にきく・お話　山本香織　20
【カリキュラム】
9月　月のねがい表　23
心にとめて　児玉純子　24
実践報告　井上幼稚園　26
実践からの学び　加藤真央　32
絵本のとびら　市来千代子　33
心にとめて　高梨美紀　34
実践報告　ソフィア幼稚園　36
実践からの学び　国府田郁絵　41
〈連載〉子どもの健康　田中弘美　42
〈連載〉キリスト教の行事　桜が丘幼稚園　46
目福口福耳福　山口里子　49
礼拝のお話　本田聡子　50
子どもと賛美するために　60
風　塚本潤一　編集子　三ツ橋ゆり　61
連盟だより　62

表紙絵　田中槙子
カット　中畝治子　こだいみのり　松成真理子　金井ユリ